

COPD(タバコ病)

カラ咳,息切れは危険信号?!

【監修：京都大学医学部 呼吸器内科 教授 三嶋 理晃】

こんな患者さん,見過ごしていらっしゃいませんか?

風邪もひいていないのに咳や痰が止まらない。ちょっとした運動や日常生活で息切れを感じることもある。そんな症状を見過ごしていませんか?ありふれた症状ですが,COPDを疑ってみてください。

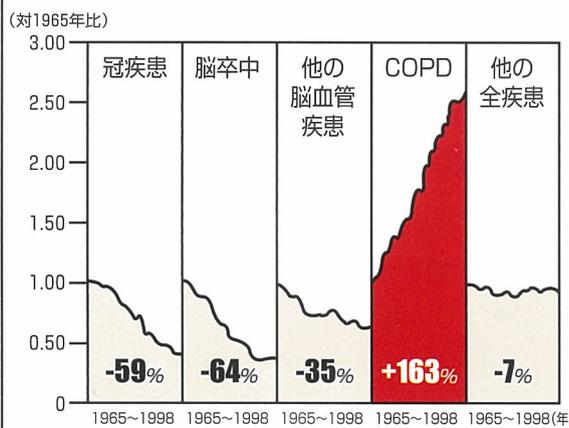
COPD(慢性閉塞性肺疾患)

COPDは,空気の通り道である気管支や,気管支から分岐した細気管支,その先にある肺胞に炎症性の病変が生じ,肺への空気の入りが阻害され,呼吸困難を引き起こす病気の総称です。

潜在患者数530万人以上

2001年のNICE Study(Nippon COPD Epidemiology Study)による大規模調査の結果,日本におけるCOPD患者は530万人を上回るといわれ,特に40歳以上のCOPD有病率は,約8.5%という驚くべき数字が報告されています。世界的に見ても,WHOの統計によればCOPDは現在世界の死亡率の第4位,今後さらに増え続け,2020年には全世界の死亡率の第3位になることが予想されています。

米国における各種疾患死亡率の推移(1965~1998年)



第41回日本呼吸器学会 「GOLDガイドラインの国際発表」 2001.4.4

現在の重要な死因の一つでありながら,
COPDと診断されている患者さんはCOPD罹患者のごく一部で,
潜在的患者さんはその数倍に上ると考えられます

かかりつけ医のドクターが主役です!

COPDでは早期診断,早期治療の重要性が指摘され,かかりつけ医の先生は,早期診断のカギを握っています。診断においてすべきことは初期の段階でCOPDに気づくことです。

咳,息切れ,喘鳴,痰といった日常のありふれた症状に注意してください。



COPDのリスクファクター

COPDは,別名**“タバコ病”**ともいわれ,約**90%の患者さん**が喫煙者です。また,喫煙者はもちろん,受動喫煙によりタバコを吸わない人の健康までおびやかしています。しかし,それ以外の発病因子も存在するのです。

危険因子

喫煙(受動喫煙も含む),大気汚染,職業環境

(粉塵や化学物質等の有害物質を吸い込む可能性のある職業),遺伝

※危険因子に対して感受性が高い一部の方々が臨床的に問題となるCOPDへと進行することが判っています。

どのような症状でCOPDを疑うか?

示唆する特徴は?

中年期に発症,徐々に症状が進行,
運動中の呼吸困難,不可逆な気流制限,長い喫煙歴

- 自覚症状…労作時の息切れ,喀痰,咳嗽,喘鳴
- 喫煙歴
- 吸気時に鎖骨上窩・肋間が陥没
- 胸郭のピア樽状変形
- 肋骨下方外縁が吸気時に内側へ移動 (Hoover徴候)

